

平成 30 年度 Let's びぎんプロジェクト 活動報告書

No.	プロジェクト名	掲載頁
1	遊休地活用プロジェクト-畑ラボ-	1-7
2	岩手で活躍する盲導犬はどこからくるの？ -知ってほしい、目の不自由な方のこと、盲導犬のこと-	8-13

平成30年度 Let's びぎんプロジェクト

最終報告書

プロジェクト名：遊休地活用プロジェクト-畑ラボ-

＜報告書必須記載事項＞

1. 構成員氏名・学部・学科（課程）・学年

No.	氏名	学部	学科課程	学年	備考 (役職担当等)
1	中村 佳祐	農	食料生産環境学科	3	代表
2	神尾 真大郎	農	共生環境課程	4	副代表
3	伊藤 成	農	共生環境課程	4	
4	佐藤 瑞穂	農	食料生産環境学科	3	
5	穂刈裕一	農	森林科学科	1	
6	二子石 大智	農	森林科学科	3	
7	今井 俊	人社	地域政策課程	2	
8	菅原 唯斗	人社	地域政策課程	2	

2. 活動目的

- ① 耕作放棄地の活用
- ② 農作物の生産・販売を身に着ける
- ③ 学生が“地域農業”と接する拠点づくり

の3点を目的とする。そのうえで、将来的には、大学・学生（学問）と農家・自治体（産業）との相互交流の拠点とし地域の課題に学生・大学が学問の観点からコミットできる場を目指す。また、地域の農業組織と連携を図り農業人材の輩出につなげていくことを目指す。

3. 活動の経過・内容

3-1 活動スケジュール表

3-2 活動内容詳細

3-2-1 栽培・販売

本プロジェクトで使用した遊休地が作物の栽培活動終了から2,3年が経っていることもあり、土地全体の草刈り・耕耘を栽培活動の実施の前段階として実施した。栽培の詳細としては、夏野菜6品目(ズッキーニ,ナス,ミニトマト,ピーマン,南蛮,オクラ)、冬野菜5品目(人参,水菜,はつか大根,ふゆ菜,ほうれん草)の栽培を行った。また、栽培期間は夏野菜が5~8月、

冬野菜が 9~12 月であった。栽培にあたっての管理は、週 1 回程度実施し草刈りを主に行った。

3-2-2 勉強会・研修

○勉強会

「たきざわ 3 しょくプロジェクト¹⁾」との共催イベントとして「iMA5 Lab#3 畑ラボ×たきざわ 3 しょくプロジェクト」の実施を 10/26 に行った。参加者は、12 名であった。内容は、滝沢市にける農業の現状と今後の在り方、畑ラボの活動紹介と関連した質疑応答について座談会形式で実施した。

[参考]

1) たきざわ 3 しょくプロジェクト HP <<https://3-color.jp/index.html>>

○研修

盛岡いさり農園の山口さん(リンゴ)、駿河農園ベジスルの駿河さん(スイカ・サツマイモ)、早野商店の早野さん(フルーツほおづき)の 3 農家さんに受け入れていただき、作物の栽培方法や販売手法・経路等についてのレクチャーを受けた。

3-2-3 イベント

○除草パーティー

種植えや草刈りなど栽培・管理作業の実施にあたり、サポートボランティアの募集を行った。8 回実施で累計 24 人の学生が作業に参加した。

3-2-4 その他

○活動 PR

- ・ WildCup2018
- ・ 熱血！5 時間生テレビ
- ・ 河北新報
- ・ クラウドファンディング(いしわり)

「畑ラボ」プロジェクトの PR を目的に各種イベントへの出演、メディアからの取材、資金調達を実施した。

○情報発信

Twitter、Facebook による活動情報の発信を行った。

○他農業団体との交流

- ・ アグリッチプロジェクト (横浜国立大)
- ・ 畑でソトメシ (花巻市)
- ・ 雫石ホップチャレンジ (雫石町)
- ・ 遠野ホップ収穫祭 (遠野市)

の4つの団体において実施されているイベントへの参加、情報共有を行った。

4. 結果報告

活動目的において以下の3点を設定していた。

- ① 耕作放棄地の活用
- ② 農作物の生産・販売を身に着ける
- ③ 学生が“地域農業”と接する拠点づくり

上記記載目的①、③達成のため

・近隣農家と連携して作物の栽培～販売を実施

栽培活動として、夏野菜6品目、冬野菜5品目の栽培を実施した。夏野菜は一定量の収量を確保できたが、冬野菜は栽培開始時期が遅れてしまい十分な収量を確保することが出来なかった。

販売方法としては、滝沢市役所農林課竹鼻様のご協力頂き、滝沢朝市、ビックルーフ滝沢での店頭販売、その他産業まつり等各種イベントでの販売を計画してきたが、当初販売を予定していた冬野菜の収量がまいちであったため販売までもっていくことが出来なかった。

また、栽培にあたっては、近隣農家さんに栽培方法の指導を頂くことを検討していたが、研修にて受け入れていただいた農家さんの栽培作物と実際に栽培した作物とが異なっていたため指導を頂くことが出来なかった。しかし、プロジェクトにて使用している畑の所在地区での多面的整備事業に参加するなど近隣農家さんとのつながりを作ることが出来た。

・近隣住民、農業者、学生を巻き込んだイベント実施

「たきざわ3しょくプロジェクト¹⁾」との共催イベントとして「iMA5 Lab#3 畑ラボ×たきざわ3しょくプロジェクト」を実施することが出来た。このイベントの実施によって広く地域の方に自分たちが取り組んでいるプロジェクトについて知って頂くきっかけになったと考えている。

「除草パーティー」では、種植えや草刈りなど栽培・管理作業の実施にあたり、サポートボランティアの募集を行い多くの学生に参加してもらうことが出来た。この栽培活動体験がきっかけとなり少しでも農業に関心をもってもらえたのではないかなと思う。

上記記載目的②達成のため

・近隣農家さんの元で年間を通じて農業研修

盛岡いさり農園の山口さん(リンゴ)、駿河農園ベジスルの駿河さん(スイカ・サツマイモ)、早野商店の早野さん(フルーツほおづき)の3農家さんに受け入れていただけた。しかし、通年での受け入れはスケジュール的な問題で実現できなかった。

5. 今後の活動予定

本年度目標に掲げていた3目標のうち「①耕作放棄地の活用」「③学生が“地域農業”と接する拠点づくり」は一定程度達成できたが、「②農作物の生産・販売を身に着ける」は一部の達成となった。したがって、来年度は本年度の活動において未達成であった部分「農作物の販売」に重点的に力を入れて活動を行っていきたいと思う。

また、活動の持続可能性の実現にあたっては、資金の安定的な確保が必要不可欠と考える。したがって、先述の「農作物の販売」を行いつつ、ただ、販売するだけでなく付加価値をつけるなどしっかりと利益を上げられるような仕組みを構築していくことを目標とする。

6. 活動写真



畑



研修風景①(駿河ベジスル)



研修風景②(早野商店)



収穫作物



イベント -除草パーティー-



WildCup2018

平成30年度 Let's びぎんプロジェクト

最終報告書

プロジェクト名：岩手で活躍する盲導犬はどこから来るの？

—知ってほしい、目の不自由な方のこと、盲導犬のこと—

○構成員名簿

No.	氏名	学部	学科課程	学年	備 考 (役職担当等)
1	村田 美和	農学部	動物科学課程	4 年	代表
2	高橋 ひろの	農学部	動物科学科	3 年	副代表
3	三根 琴美	農学部	動物科学課程	4 年	会計
4	橋口 季和	農学部	動物科学科	2 年	
5	柳瀬 光	農学部	動物科学科	2 年	冊子デザイン
6	海野 綾香	農学部	動物科学科	1 年	SNS 広報
7	倉部 鈴美	農学部	動物科学科	1 年	冊子デザイン
8	成田 泰雅	農学部	動物科学科	1 年	
9	峰村 佳武	農学部	動物科学科	1 年	
10	小山 慧祐	農学部	動物科学科	1 年	
11	鎌田 朋弥	農学部	動物科学科	1 年	SNS 広報
12	長通 みなみ	農学部	動物科学科	1 年	
13	仲山 玲香	農学部	動物科学科	1 年	

○活動目的

本学の学生や地域の方々、地域子どもたちに目の不自由な方や盲導犬について知っていただき、正しい知識を持った良き理解者となっただけたらと思ひ活動してきました。啓発活動の最終的な目標としては、目の不自由な方や盲導犬が安心して外出できる街になってほしいと考えました。

盲導犬に対してかわいそうという印象を持っている方も少なくありませんが、実際は盲導犬になるまでにボランティアの方や盲導犬協会職員の方、その他多くの方々からたくさんの愛情を受けて育ちます。そして目の不自由な方の大切なパートナーとなって、社会参加を支える大きな存在となります。そのため、盲導犬事業に対するそういった「かわいそう」というような偏見をこの活動を通して軽減したいと考え活動を行いました。

さらに、盲導犬事業に共感してくださる方々においても目の不自由な方への理解はまだまだ進めていく必要があります。犬が好き、かわいいという気持ちは盲導犬事業を知っていただく大きなきっかけとなりますが、今回の企画を通して盲導犬のみならず、ユーザーの方や盲導犬を使用していない目の不自由な方への関心や理解を促進出来るよう活動しました。

○活動の経過・内容

7月 夏休み中の活動に向けての準備期間

①学祭エントリー

②プロジェクト公式 Twitter アカウント「岩手大学盲導犬プロジェクト」作成

8・9月 冊子作成に向けて見学・取材

①北海道盲導犬協会・日本盲導犬協会仙台訓練センター(スマイルワン仙台)
見学・取材

②盛岡市在住の盲導犬ユーザー安達靖子さん
取材

③キャリアチェンジ犬飼育ボランティアの千葉幸子さん・ヘンリー
取材

10月 学祭イベント準備と実施

①冊子作成

②イベントの告知(チラシ掲示)

③岩手大学不来方祭 10月27日(土)・28日(日)

盲導犬セミナー 27日(土)・28日(日): クロスラウンジ(中央食堂内)

盲導犬 PR 犬デモンストレーション 28日(日)のみ: 不来方祭ステージ

作成した冊子を配布した。日本盲導犬協会仙台訓練センターの職員さんに協力していただき、盲導犬 PR 犬とのふれあいや、デモンストレーション、募金活動、ボランティア募集、チャリティーグッズの販売など盲導犬や目の不自由な方への理解を深めるイベントを行った。また、目の不自由な方や盲導犬に関するアンケートを行い、イベントの効果や日常生活での目の不自由な方や盲導犬との関わりについて調査しました。

11・12月 街頭募金・ラジオ出演・年末に活動のふりかえり

①よ市での街頭募金(日本盲導犬協会・日本補助犬協会)と冊子配布

②IBC 岩手放送「クラブにおじゃま」のコーナーに出演

1・2月 活動のまとめ・今後の活動に向けて

①学内での募金箱設置・チャリティーグッズ販売の検討

②冊子を置いていただけるように公共施設や学校、商店街に依頼

③補助犬受け入れステッカーの掲示依頼(岩手大学図書館・ミュージアム)

全期間 プロジェクト公式 Twitter での情報発信

○結果報告

多くの方々にご指導・ご協力していただいたことで、約 1 年間のプロジェクトを無事終了することができたことに心より感謝申し上げます。

まずは冊子作成のための見学・取材を通して、私たち自身が多くのことを学び、貴重な経験をすることができました。そして、冊子作成や岩手大学不来方祭でのイベント、公式 Twitter、ラジオ出演、街頭募金などを通して本学の学生や地域の方々、地域の子どもたちに広く情報発信をすることができました。

今回のプロジェクトを通して見つかった課題は、学生などの若者に目の不自由な方や盲導犬について関心を持っていただいたり、周知したりすることが難しかったことや、盲導犬 PR 犬のいない状態での街頭募金やイベントが難しかったことが挙げられます。

○今後の活動予定

副代表が代表となり、活動を継続していく予定です。活動の継続人数は未定です。今後の活動では、予算がなくなってしまうのでその面をしっかりと考えていく必要があります。また、サークルや同好会とするかなど団体の立ち位置を今後検討していく必要があります。

補助犬受け入れステッカー掲示に向け、2019 年度 4 月以降に盲導犬受け入れセミナーを岩手大学の図書館やミュージアムの職員の方向けに行えるよう検討中です。

○活動写真



日本盲導犬協会仙台訓練センターにて白杖歩行体験



北海道盲導犬協会にて盲導犬体験歩行



岩手大学不来方祭での盲導犬 PR 犬ふれあい・街頭募金準備中



岩手大学不来方祭での盲導犬 PR 犬デモンストレーション



岩手大学不來方祭での盲導犬セミナー



冊子作成に向けてワークショップ形式での話し合い